

第5学年2組 家庭科 学習指導案

指導者 教諭 伊田 朱里

1 題材の構想 ミシンにトライ！手作りで楽しい生活（東京書籍）B（5）アイ

の児童の姿	一人一人の思いや願いのこもった布製品を製作することができ、製作を通して、布製品のよさや多様さに気付くとともに、生活を豊かにするための布製品を作って、生活をよりよくしようとしている。		
	【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
題材の目標	<ul style="list-style-type: none"> 安全なミシンの使い方を理解し、正しく使うことができる。 丈夫に作るための製作計画を立て、製作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活を見つめ直し、生活を豊かにするための課題を見だし、さまざまな解決方法を考えることができる。 実践を評価・改善し、自分の考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活をよりよくするための課題を見つけ、改善しようと主体的に取り組む。 実践を振り返り、改善したりして、生活を豊かにする工夫をし、実践しようとしている。
目標に向かうための手立て	<p>○研究の視点</p> <p>【視点1 課題設定の工夫】 題材導入時に「世界に一つだけのエプロンを作ろう」という題材を通してためあてを設定することで意欲を喚起するとともに、そのために必要な技能や準備・製作計画を自ら考えることができるようにする。</p> <p>【視点2 指導の工夫】 実物や見本、段階写真を提示し、見比べることで、一つ一つの手順をイメージしやすくする。また、見本をもとに考えた縫う順番や工夫について交流し、製作手順の根拠に気付かせることで、自分の考えを広げ、深めることができるようにする。</p> <p>【視点3 振り返りの工夫】 生活を振り返り、生活に学びを生かすという教科の特質から、振り返りシート（メタモジ）を活用し、「今日の学び」「これから」の視点で振り返りを行い、自分の生活の変化や成長を実感できるようにする。また、製作の様子を画像で記録し、改善点を記入することで、次の製作に生かすようにする。</p>		
児童の実態	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期は、フェルトを使って手縫いで小物入れの製作をした。玉結び、玉どめ、ボタン付け、なみ縫い、かがり縫い、返し縫いを学習している。 ○ミシンを使ったことがあると答えた児童は3人。家にミシンがない児童は5割を超えている。ミシンに対して「危なそう」「怖い」というイメージを持っている児童が半数いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1学期の手縫いの学習では、縫う順番や縫い方の工夫について問題を見だし、課題を設定した。製作見本を観察したり手順カードを並べ替えたりする活動を通して、身に付けた技能を生かした縫い方を検討し、製作計画を立て、製作することを経験している。 ○1学期の手縫いの学習を振り返り、「作るのが楽しい。」「大事に使おう。」「他にも作ってみたい。」と感じている児童が多い。その反面、「難しい。」「きれいに作れない。」「やり方が分からない。」と苦手意識を持っている児童が2人いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○これまでに生活を豊かにするものを自分で作ったことのある児童は、2割である。そのうち、布を使って作ったことがある児童は、2人いる。 ○1学期の手縫いの学習後、家庭で小物入れなどを作りたいと製作計画を立て、夏休みに製作した児童は4割いる。 ○ミシンの授業では、エプロンの他にも「バックを作りたい」「ランチョンマットを作りたい」など学習を楽しみにしている児童が多い。

題材の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②ミシン縫いによる目的に応じた縫い方について理解できるとともに適切にできる。 ③ミシンなどの用具の安全な取り扱いについて理解できるとともに適切にできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①マイエプロンの製作計画やミシン縫いによる製作について問題を見だし、課題を設定している。 ②様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いたミシン縫いによる製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組む。 ②実践を振り返って改善したり、生活を工夫したりして、実践しようとしている。

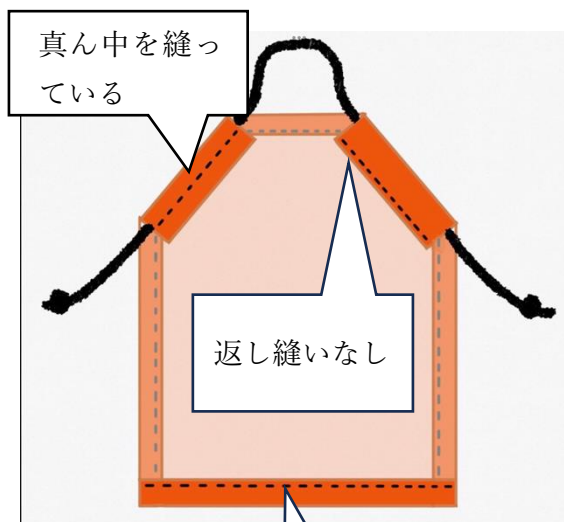
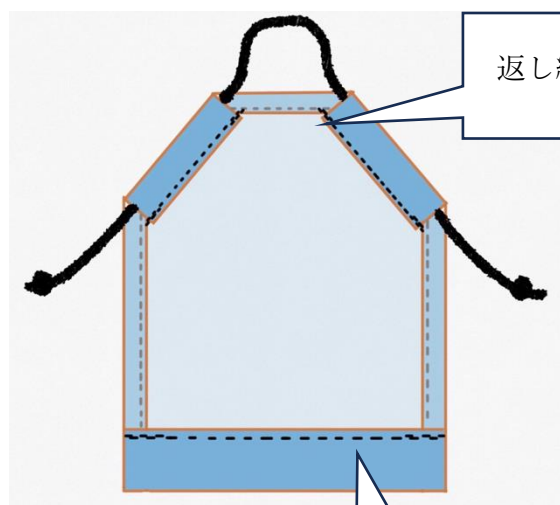
指導と評価の計画（12時間取り扱い ●本時 7/12）

課題	次	時	主たる学習活動	評価する内容と方法等
世界に 一 っ だ け の エ プ ロ ン を 作 ろ う	1	1	○ミシン縫いと手縫いの違いを考えたり、身近なミシン縫いの布製品を観察したりして、ミシン縫いのよさに気付く。 ○自分の生活を豊かにするものを考え、その製作に必要な技能や準備物などを考え、製作計画を立てる。	【思】①学習シート 【主】①振り返りシート
	2	2	○手縫いの時と比べながらミシン縫いで必要な部分の名前を知る。安全なミシンの縫い方について知り、直線縫いをする。 「ミシン針」「はずみ車」「押さえ（レバー）」「コントローラー」「電源（スイッチ）」 ○「返し縫い」「角の曲がり方」の仕方を知り、縫う。 ○ミシンの糸通しの仕方が分かる。	【知】②③観察・作品 【主】①振り返りシート
	3	3		
	4	4		
	5	5	○エプロンにふさわしい布を選ぶ活動を通して、いろいろな布の違いや種類に気付く。 ○必要な布の大きさや布端の始末の必要性を理解する。	【知】①学習シート
	6	6		
3	7	7	●見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てる。	【知】①学習シート 【思】①学習シート
8	8	○製作計画に沿って、製作する。 ①布にしるしをつける。 しつけをする。 ②直線縫いをする。 ③かざりやポケットをつける。 ④アイロンをかけ、ひもを通す。	【知】②③観察・作品 【思】②学習シート 【主】②振り返りシート	
9	9			
10	10			
11	11			
4	12	12	○作品を友達と見せ合い、自分の製作を振り返る。	【思】②学習シート 【主】②振り返りシート

【見本】

完成見本

比較見本



2 本時の授業計画

(1) 本時の目標

見本をもとにエプロンの製作手順や工夫を考え、製作計画を立てることができる。

(2) 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ◎評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5	1 本時のめあてを確認する。	○どうやってエプロンを作るのだろう。 ・手順を知りたい。	○前時までの活動を電子黒板に掲示することにより振り返ることができるようにする。	電子黒板
	『世界に一つだけのエプロン』のぬう順番と工夫を考えよう。				
展開	20	2 縫う順番を考える。 (1) グループで考える。 (2) 全体で共有する。	○エプロンを作るにはどこを縫えばよいか考えましょう。 ・周りを三つ折りにして縫う。 ○どんな順番で縫うとよいか考えましょう。 ・重なっているところを見ると縫う順番が分かる。 ・ひも通しの部分を後に縫うと、ひもが通る。	○紙のミニエプロンを準備することで、実際に縫い代部分をつなげながら考えることができるようにする。 ○見本を準備することで、詳しく観察し、縫う場所や順番を考えることができるようにする。	紙のミニエプロン 完成見本 電子黒板 タブレット (メタモジ)
	15	3 縫い方の工夫を考える。 (1) 丈夫に縫う工夫を考える。 (2) 裾の縫い方を考える。 (3) 見つけた工夫を確認する。	○□□な工夫を見つけましょう。 ・丈夫にするために、縫い始めと縫い終わりは、返し縫いがしてある。 ・丈夫にするために、ひも通しの部分の縫い始めと縫い終わりは、はみ出して縫ってある。 ・ひもが通せるように、ひも通しの部分は端を縫ってある。 ・長く使えるために、裾が大きく折り曲げてある。身長が伸びた時、調整できると思う。	○手縫いの時に見つけた工夫と関連付けて、縫う場所にも目をつけながら見つけることができるようにする。 ○題材導入時の子どもたちの思いから□□の言葉を当てはめる。 ○実際に着用している写真や標本を使い、裾のぬいしろの違い、長く使うためのよさに気付くことができるようにする。 ◎【知】①縫う順番や工夫について理解している。	比較見本 タブレット (メタモジ) 電子黒板
				○分かったことや工夫することをまとめましょう。	◎【思】①マイエプロンの製作計画について考えている。
終末	5	4 本時の学びを振り返る。	○どんなことを学びましたか。 ・縫う順番を間違えないようにしたい。 ・丈夫に使えるように返し縫いを忘れないようにしたい。 ・ひもが通せるように、端を縫うことを忘れないようにしたい。	○本時の学びを書くことにより製作に生かせるようにする。	タブレット (メタモジ)